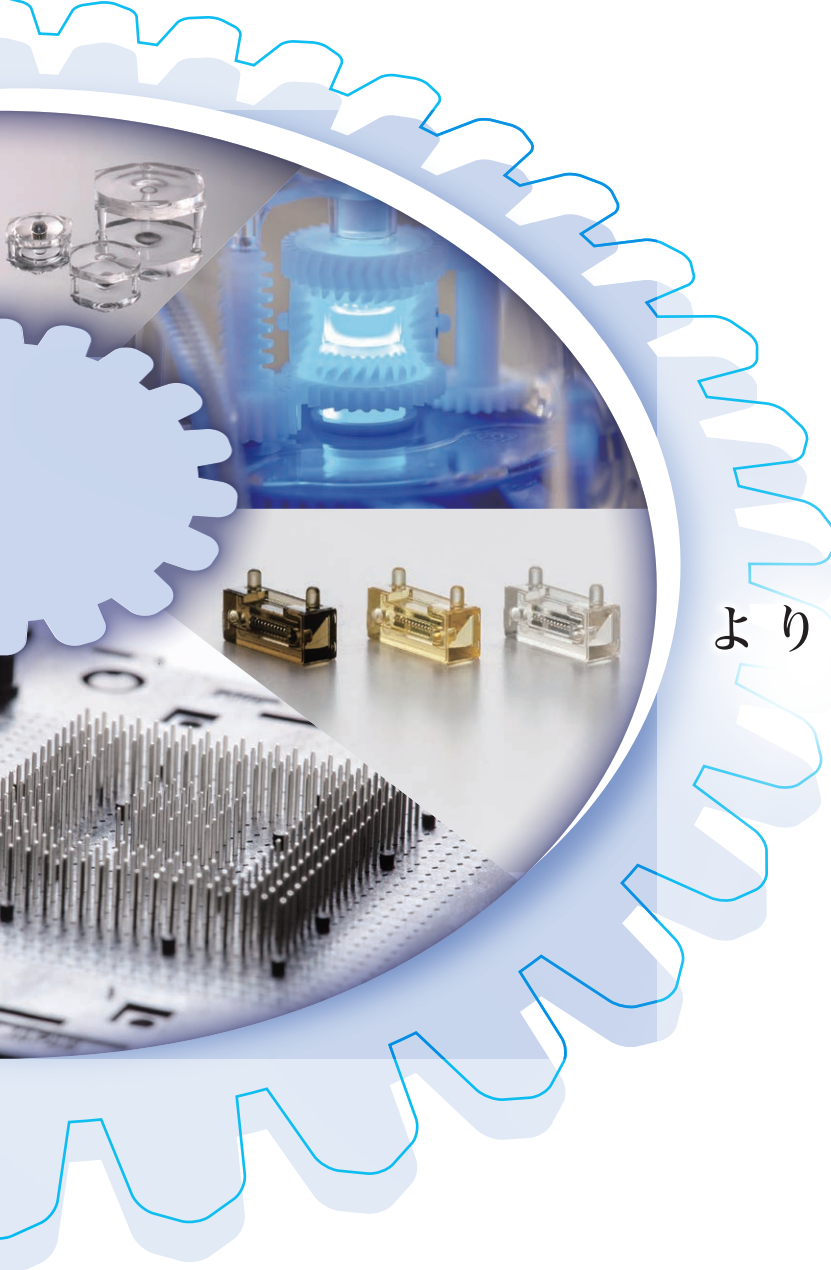


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

平成29年3月期 (第56期) 報告書
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

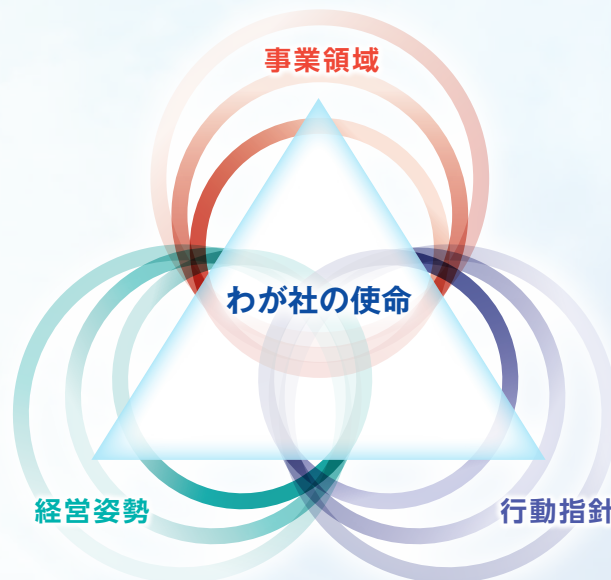
enplas



株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 07. EnplasのPolicy
- 08. 連結財務の状況
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

事業の経過及びその成果

当連結会計年度における世界経済は、米国市場では、新政権の誕生により一時混乱が見られたものの、景気は緩やかに拡大しました。中国市場においては、公共投資により景気が下支えされましたが、不動産市場には過熱感が見られ、また、新興国・地域においては、ドル高を受けた資本流出が一服し、総じて景気の改善が見られました。

わが国経済は、海外経済の回復や五輪関連の設備投資の増加を受け、緩やかな回復基調となる一方で、慢性的な人手不足が顕在化し、さらに欧州でのBREXITをめぐる先行き不透明感の高まり、各国における保護主義の台頭や急激な為替変動のリスクなど、依然として予断を許さない状況が続いています。

このような状況の中、当社グループでは、さらなる成長を目指すため、以下を当期の経営基本方針として取り組んでまいりました。

- ① Operational Excellence 業務改善プロセスの定着
- ② Specification Technology スペックビジネスの推進
- ③ Multiple Growth 多様な成長戦略の実行

また、上記経営基本方針の下、グローバル競争の激化等、当社を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、企業価値の向上及び株主価値の拡大を図るべく、次の重点推進事項を進めてまいりました。

- ① イノベーションへの積極投資
- ② マーケティング機能の強化
- ③ 戦略製品の開発促進
- ④ 最先端評価技術の強化
- ⑤ 多様な事業機会の創出

当連結会計年度の主な実施施策としましては、グローバル経営を進化させることを目的として、米国統括

株主の皆様へ

会社の機能を大幅に強化し、また、欧州統括機能を担うイギリスの子会社を設立し、事業開発を推進しております。加えて、ソリューションビジネス強化のための最先端評価技術の開発や多様な事業機会を創出するための積極的な投資を拡大しました。その他、社員の経営参画への意識を高め、全社一丸となって将来の業績向上へのインセンティブとするためストックオプションを発行いたしました。

対処すべき課題

当社グループの事業分野であるエンプラ事業、半導体機器事業、オプト事業は日々新しい技術が生まれ、市場の変化が非常に激しい業界であり、このような環境下における当社の対処すべき課題は次のとおりです。

①多様な成長戦略の実行

当社の収益体制は、半導体機器事業が伸長しているものの依然としてオプト事業に偏重しており、エンプラ事業の収益性の向上や半導体機器事業のより一層の成長、新事業開発の推進による収益の安定化・多様化が不可欠であると考えております。

これに対応するため、エンプラ事業と半導体機器事業ではグローバル事業基盤を強化し、全社の取り組みとしては新製品の研究開発やM&A、新技術への投資による多様な事業機会の創出を推進してまいります。

②スペックビジネスの推進

当社グループが属する電子部品業界においては、顧客ニーズの多様化や高度化が進行しており、顧客に

価値あるソリューションを提案するためには、顧客目線で必要な評価を実施し、機能保証を行うことが重要であると考えております。

当社はこれを実現するために、最先端評価技術の開発を推進し、より高度な技術的提案を通じて他社との差別化に取り組んでまいります。

③経営リスクへの対応

当社グループを取り巻く経営上のリスクは、グローバル化の進展により益々増してきていると考えております。

当社は、知的財産権に関するリスク、市場での価格競争激化と在庫調整によるリスク、為替レートの変動リスク、カントリーリスク、災害等によるリスクが当社に影響を及ぼす可能性があると考え、対応策について随時審議決定しております。

また、当社の開発製品及び技術に対する知的財産権に関するリスクの最小化を最重要課題として捉え、当社が保有する知財財産権の保護に努めるとともに、より強力な知財の保有を推進しております。

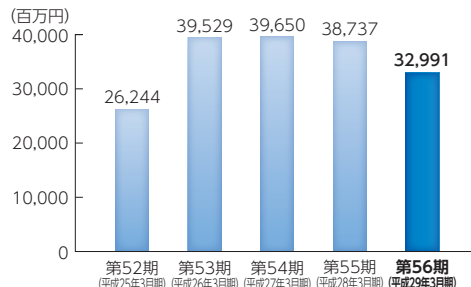
これらの施策に積極的に取り組むことにより、持続可能な成長の実現を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績の推移

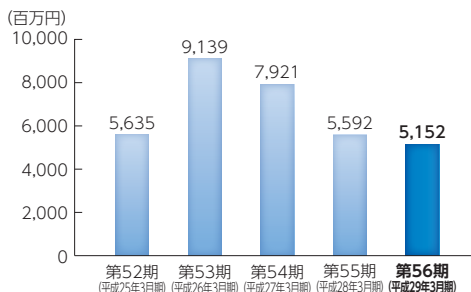
■ 連結売上高

1



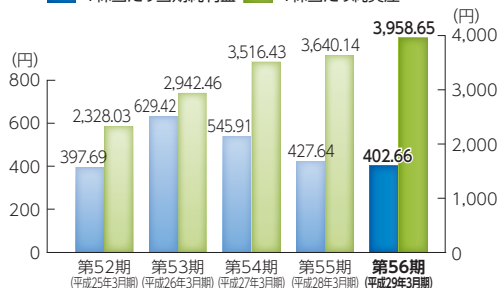
■ 親会社株主に帰属する連結当期純利益

3



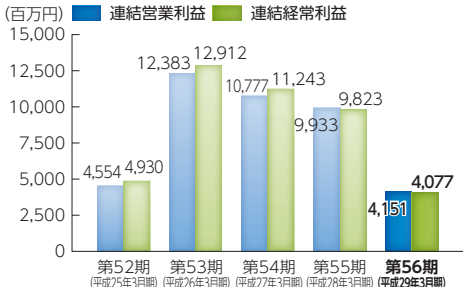
■ 1株当たり当期純利益 / 1株当たり純資産

■ 1株当たり当期純利益 ■ 1株当たり純資産



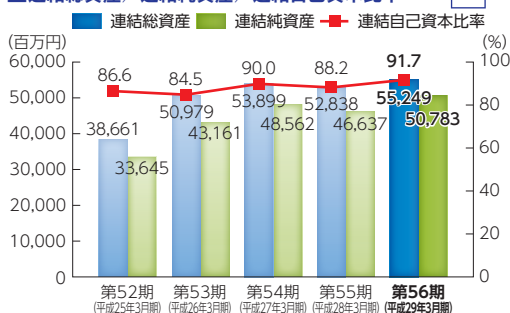
■ 連結営業利益 / 連結経常利益

2



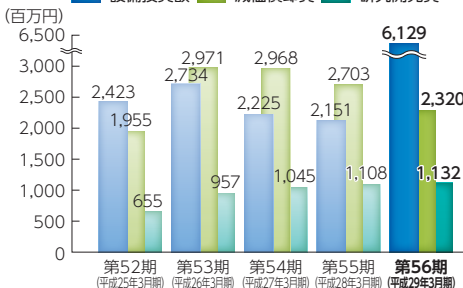
■ 連結総資産 / 連結純資産 / 連結自己資本比率

4



■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ■ 研究開発費



ポイント 1

当期における連結売上高は32,991百万円(前期比14.8%減)となりました。

ポイント 2

連結営業利益は4,151百万円(前期比58.2%減)、連結経常利益は4,077百万円(前期比58.5%減)となりました。

ポイント 3

親会社株主に帰属する連結当期純利益は5,152百万円(前期比7.9%減)となりました。

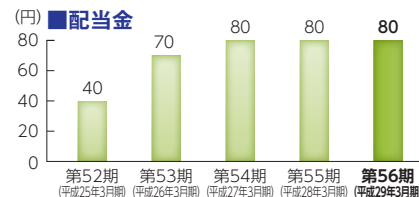
ポイント 4

連結純資産は50,783百万円(前期比8.9%増)、自己資本比率は91.7%(前期比3.5ポイント増)となりました。

株主還元について

1株当たり 配当金80円

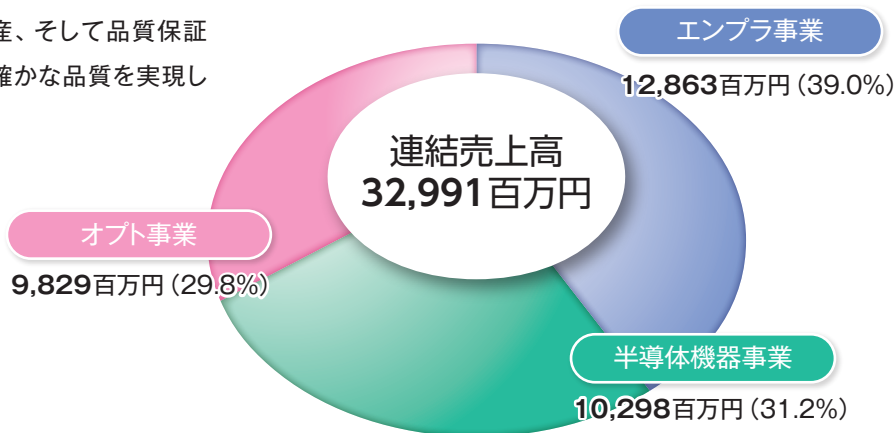
当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当を1株当たり80円とさせていただきます。



事業別概況

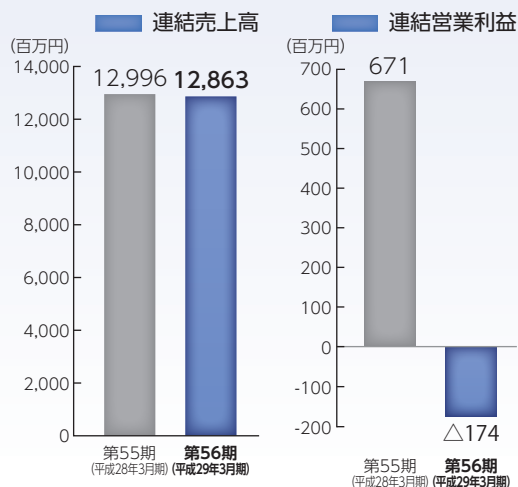
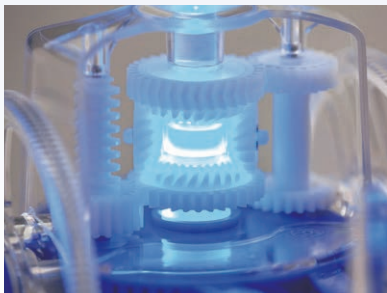
事業セグメント別連結売上高構成比 平成29年3月期 (平成28年4月1日から平成29年3月31日)

当社の各事業は、先進のオプティクスやエレクトロニクス技術を、基盤テクノロジーであるエンブラ技術に融合し、金型設計から量産、そして品質保証まで含めた一貫生産体制により確かな品質を実現しています。



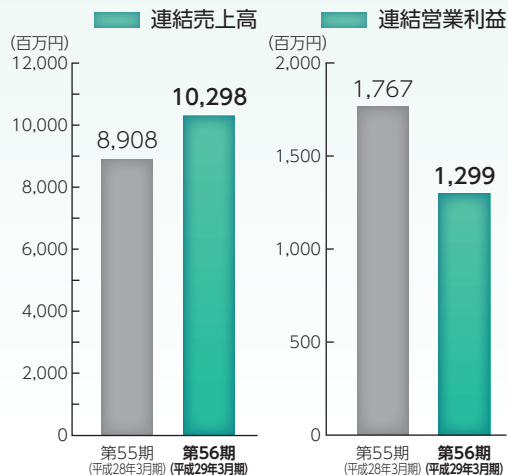
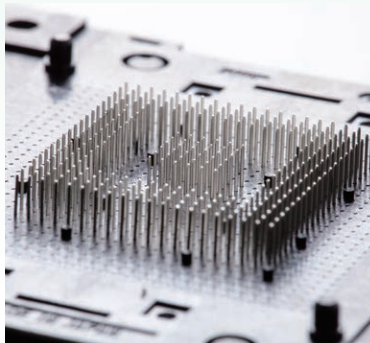
エンブラ事業関連

自動車用部品は米国を中心とした良好な市況に支えられ、安定的に推移しているものの、プリンター用部品はプリンター市場の成熟に加え価格競争の激化も重なり、低調に推移しました。この結果、当連結会計年度の連結売上高は12,863百万円（前期比1.0%減）、セグメント営業損失は174百万円（前期は671百万円の営業利益）となりました。



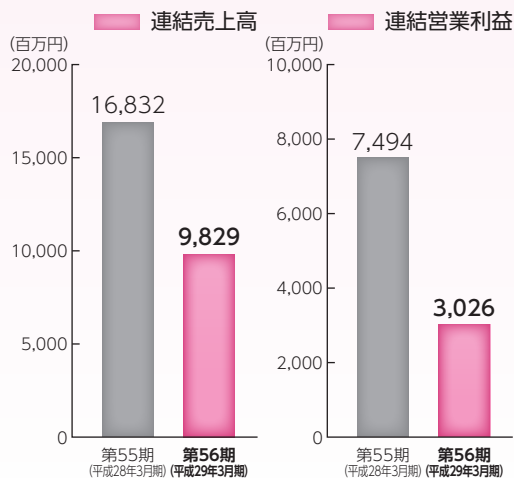
半導体機器事業関連

海外主要顧客の生産調整による影響を一部受けたものの、当期注力したテストソケットの受注が拡大し、車載用途についても好調な販売となりました。円高の影響も大きく受けた結果、当連結会計年度の連結売上高は10,298百万円(前期比15.6%増)、セグメント営業利益は1,299百万円(前期比26.5%減)となりました。



オプト事業関連

光通信関連の光学デバイスはサーバー需要が底堅く、ハイエンド製品を中心に販売が好調でしたが、主力のLED用拡散レンズは、積極的な提案活動により顧客基盤の強化・拡大を進めたものの、主要顧客の生産調整の影響を強く受け、売上は低調に推移しました。この結果、当連結会計年度の連結売上高は9,829百万円(前期比41.6%減)、セグメント営業利益は3,026百万円(前期比59.6%減)となりました。



品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンプラスグループは世界の全ての拠点において共通の品質方針を掲げ活動しています。
2. エンプラスは世界の全ての拠点において、ISO9001を基本フレームとした共通の品質マネジメントシステムで品質保証活動を推進しています。
3. エンプラスは品質第一主義で、全ての事業活動において品質改善活動を展開し、お客様に安心して使用していただける製品を生産・供給していきます。
4. エンプラスは供給する全ての製品の品質について責任を負うべく、各々の生産拠点で対応するほか、全社を上げて対応できるよう、本社への情報集中機能と本社からの支援活動機能を準備しています。

ISO9001 認証取得
【登録組織】
株式会社エンプラス
【登録範囲】

1. 精密プラスチック
ギヤ、キャブレター
用プラスチックフ
ロート、プラスチック光学素子、光学素子及
びその他エンジニアリングプラスチック精密成
形品の設計・開発、製造及び製造管理
2. ICソケット及びキャリアの設計・開発及び製造
管理



環境活動 — 自らに厳しく。それが環境配慮への信念です。 —

エンプラスは、環境マネジメントシステムに関するグローバルスタンダードであるISO14001の認証を取得することはもちろんのこと、その規格に則って、環境マニュアルを作成し、比較的環境負荷の少ない地区においても「自己宣言」を行い、自らを厳しく律し、環境保全活動に取り組んでいます。

このような姿勢は、私たちの共有財産である環境の保全に対する意識を、より実質的かつ本質的に、企業として、個人として、高めようとするものでもあります。

さらに、積極的なエネルギーの節約と、環境に対する負荷の少ない製品の設計、製品の供給段階での負荷の減少、部材の効率的な活用、廃棄部材の削減など、製品の設計から製造におけるあらゆるプロセスにおいても環境へ配慮しています。

常に未来を見据えて技術の向上にもトータルに努めています。

環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通し、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減/CO₂削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

ISO14001 認証取得
【登録組織】
株式会社エンプラス
鹿沼工場
【登録範囲】

エンジニアリング
プラスチック及び
その複合材による
プラスチック精密
機構部品・製品の
開発、製造



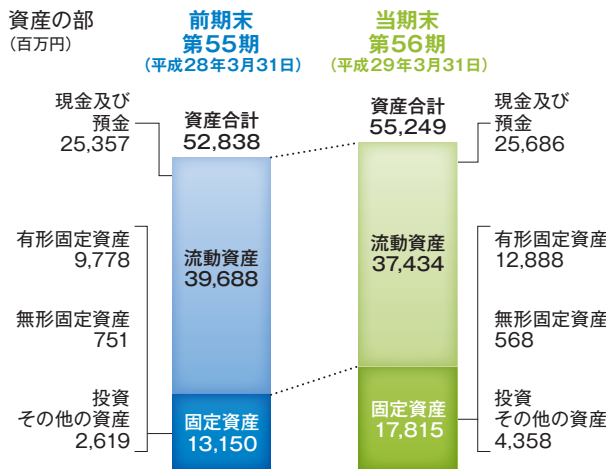
ISO 14001
REGISTERED

〈適用範囲〉

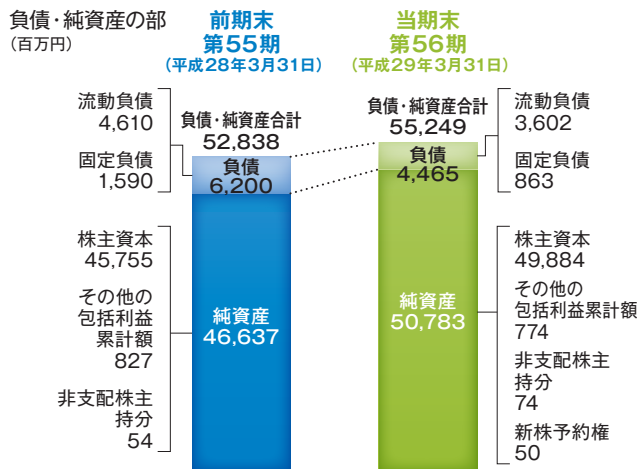
| 組織の単位・物理的境界 | 区分 | 適用範囲 |
|--|-------------------------|------|
| 工 株 式 会 社 エ ン プ ラ ス | グローバル本社 | 自己宣言 |
| | 本社 | 自己宣言 |
| | 鹿沼工場 | 審査登録 |
| | 浜松町事業所 | 自己宣言 |
| 国 内 グ ル ー プ 会 社 | 株式会社エンプラス 研究所 | 自己宣言 |
| | 株式会社エンプラス ディスプレイデバイス | 自己宣言 |
| | 株式会社エンプラス 半導体機器 | 自己宣言 |
| | QMS株式会社 | 自己宣言 |

連結財務の状況

■ 連結貸借対照表の概要

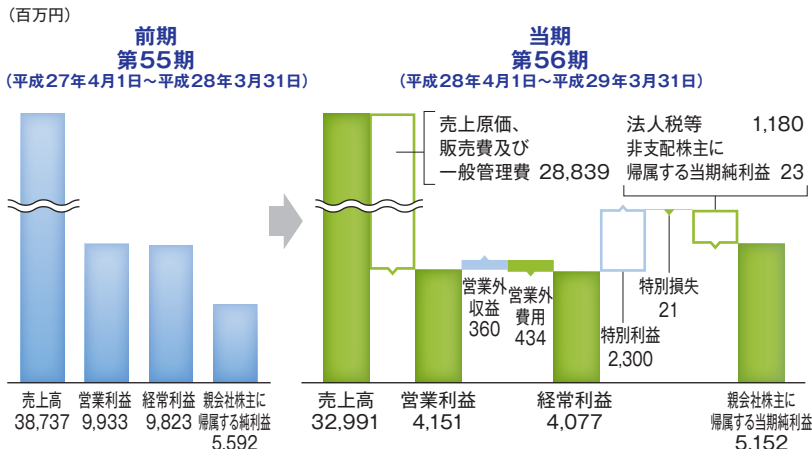


総資産は55,249百万円となり、前連結会計年度末比2,410百万円の増加となりました。流動資産が2,254百万円減少しましたが、固定資産につきましては4,664百万円増加しました。主な変動要因は有形固定資産で3,109百万円、投資その他の資産で1,738百万円増加したことによるものです。



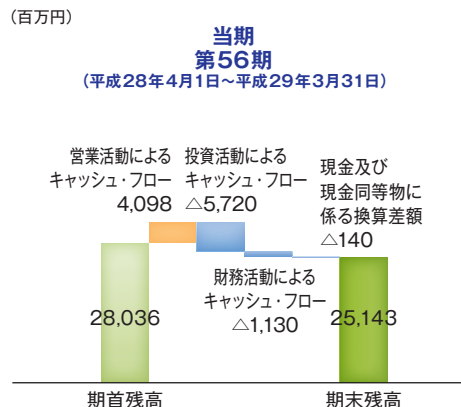
純資産は50,783百万円となり、前連結会計年度末比4,145百万円の増加となりました。その結果、自己資本比率は91.7%となり、前連結会計年度末比3.5ポイント増加しております。

■ 連結損益計算書の概要



連結売上高は32,991百万円(前年同期比14.8%減)となり、連結営業利益は4,151百万円(前年同期比58.2%減)、連結経常利益は4,077百万円(前年同期比58.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は5,152百万円(前年同期比7.9%減)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要



当期における現金及び現金同等物は25,143百万円となり、前連結会計年度末に比べて、2,893百万円減少しました。

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(平成29年6月23日現在)

(平成29年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社エンプラス
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設立 1962年2月21日
資本金 80億8,045万円

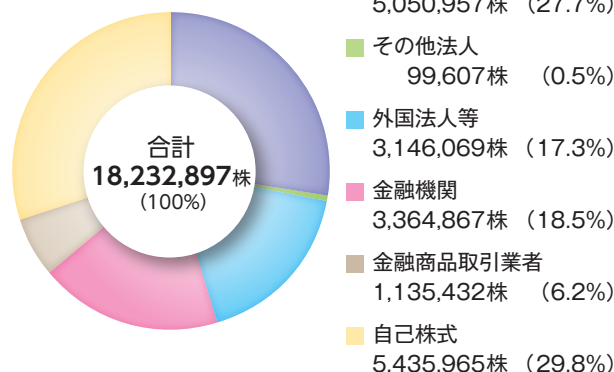
株式情報

発行可能株式総数 62,400,000株
発行済株式総数 18,232,897株
株主数 4,987名

取締役及び執行役員

| | |
|--------------|------------|
| 代表取締役兼社長執行役員 | 横田 大輔 |
| 取締役兼専務執行役員 | 酒井 崇 |
| 取締役(監査等委員) | ヨーン・ヨン・リオン |
| 取締役(監査等委員) | 風巻 成典 |
| 取締役(監査等委員) | 長谷川 一郎 |
| 常務経営執行役員 | 菊地 豊 |
| 経営執行役員 | 田宮 義男 |
| 経営執行役員 | 沓沢 茂雄 |
| 経営執行役員 | 高山 直亮 |
| 執行役員 | 星野 清孝 |
| 執行役員 | 宮坂 章司 |
| 執行役員 | 藤田 慈也 |

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店で行っております。
郵便物送付先、連絡先 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター(お問い合わせ先) ☎0120-49-7009
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法 電子公告(<http://www.enplas.com>)
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)にて開示しております。
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部

グローバルネットワーク

国内ネットワーク

グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都

- ・グローバル本社
- ・株式会社シングルセルテクノロジー
- ・浜松町事業所

鹿沼工場

埼玉県川口市

- ・本社
- ・株式会社エンプラス ディスプレイ デバイス
- ・株式会社エンプラス研究所
- ・QMS株式会社
- ・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所

西日本営業所

九州営業所



本社
株式会社エンプラスディスプレイデバイス



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



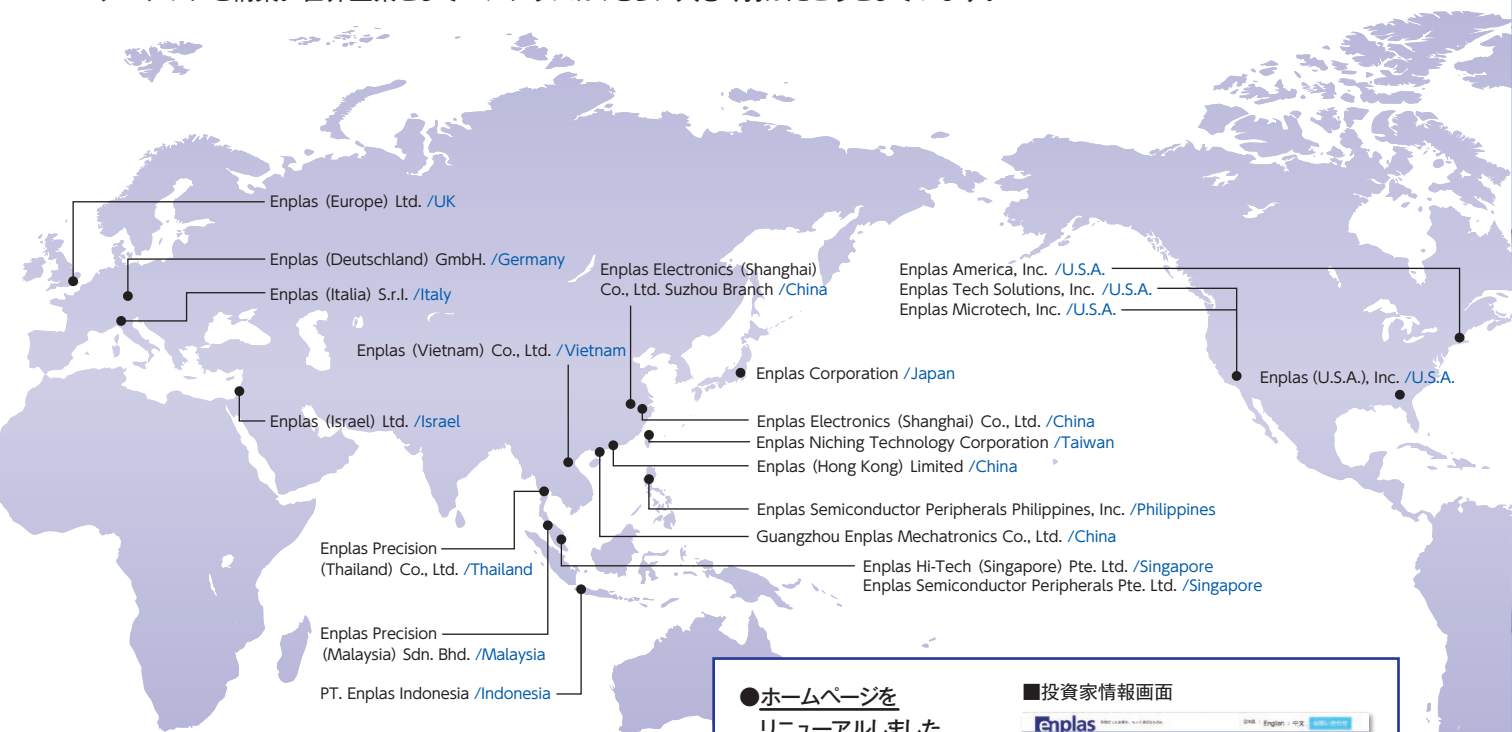
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

http://www.enplas.com

UD FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



● ホームページを リニューアルしました。

会社概要、財務情報をはじめ、
最新の情報をより見やすくし
ました。
ぜひご覧ください。

エンプラス IR 検索

■ 投資家情報画面

